

目次

まえがき i

謝辞 iii

図版リスト x

第一部 問題のありか

1

1章 心ころ 3

2章 心を自然にもどす 10

3章 心の実体 18

11章 意識——記憶された現在 131

原意識 139

12章 言語と高次の意識 148

ことばの後成説 150

高次の意識 157

13章 注意と無意識 164

注意の神経淘汰説 170

無意識 173

14章 層とループ——無意識論をまとめる 178

第IV部 調和をもとめて

15章 主義の墓場——哲学とその主張 191

16章 記憶と魂——愚かなる還元主義 202

第II部 起源について

37

4章 心理学の生物学的基礎 39

5章 形と心——ダーウインのプログラムを完成させる 49

6章 位置生物学——胚より学ぶ 61

7章 問題の見直し 78

第III部 提案——意識の理論に向けて

85

8章 再認の科学 87

9章 神経ダーウィニズム 97

10章 記憶と概念——意識への橋わたし 117

記憶の神経淘汰説 120

概念の神経淘汰説 127

カテゴリー——機能主義的認知論の危機 290

記憶と言語 294

生物学の教え 296

言語——なぜ形式論は失敗か 300

認知モデルと認知セマンティクス——生物学への回帰 306

訳者あとがき 315

出典 (27)

参考文献 (11)

事項索引 (4)

人名索引 (1)

装幀 加藤光太郎

17章	高次の産物——思考、判断、情動	212
18章	心の病——自己の再統合	219
19章	意識あるアーチファクトをつくれるか	232
20章	対称と記憶——心の究極の起源	244

あとがき 259

付章 生物学なき心理学を批判する

261

物理学——現代のお化け 262

デジタル・コンピュータ——誤ったアナロジー 270

認知的風景における悪循環 282

機能主義と意味のセマンティックな表象 285

客観主義 286